

2020年4月28日  
東京ガス株式会社

2019年度（2020年3月期）決算発表説明会

Q&A

Q 1：新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、事業環境に大きな影響を及ぼしていると思うが、中期経営計画における目標達成に向けて、今後戦略の見直し等が行われる可能性があるのか。

A 1：現時点で中期経営計画における環境認識（「脱炭素化の潮流」「デジタル化」「お客さまの価値観の変化・多様化」「エネルギーの自由化」）に変化はなく、中期経営計画の見直しを行う予定はない。新型コロナウイルスの感染拡大により、デジタル化の加速やLNGトレーディングの機会増大が想定される。そうした変化は中計で示した取り組みの方向性に合致しており、取り組みを強化していきたい。

Q 2：新型コロナウイルスの感染拡大による影響に対し、経営としてどのように対処しているのか。

A 2：当社は対策本部（本部長：内田社長）を設置するとともに、事業継続計画（BCP）に基づき、「ライフライン事業者としての公益的使命」を果たすべく、東京ガスグループ一体となって「エネルギーの安定供給・保安の確保」に取り組んでいる。また、子会社・協力企業・取引先・従業員に対しても、生命・身体の安全確保・感染拡大防止の観点から必要な対策を講じている。

Q 3：19年度は特別損失（減損損失等）の計上等により、当期純利益が433億円、配当総額が264億円となった。その結果、総分配性向が6割に達したため自社株取得の予定はないが、一過性の要因である特別損失を除いた利益ベースによる自社株取得を検討しないのか。

A 3：これまで10年以上総分配性向6割を継続してきており、短期的な要因による業績変動のみでこの方針を変更することは考えていないため、20年度中の自社株取得の予定はない。

以上